

夏に読む本

推薦図書リスト

2020年7月

森村学園中高図書館

創刊に寄せて ～「読書のすすめ」～ 校長 江川昭夫

みなさん、読書を楽しんでいますか。

「～with COVID-19～の時代」であっても、いつでも、どこでも楽しめるのが読書ではないでしょうか。

なにも難しい本でなくても良いのです。本が苦手な人にも必ずその人にふさわしい本があるのではないかと私は思います。それというのも、人は誰でも自分が経験したことのない世界・見知らぬ世界に憧れるものであり、成長したい、世の中をより良くしたいという思いをまずは頭の中で可能にしてくれるのが「本の世界」だからです。

みなさんが幼い頃に楽しんだドラえもん『ほんやくコンニャク』は、今や Google 翻訳やポケットで現実のものとなっています。この日本人の妄想力がこれからの日本を救うのだと、「AI・ビッグデータ」時代で大苦戦する日本を再生する本として注目されている『シン・ニホン』(安宅和人)に記されていますが、確かにモノガタリの底力は計り知れません。

それは何も物語の世界だけではありません。難解な数学の本だって、頭が痛くなるような哲学の本だって、それを少しでも理解できれば、理解した分だけその人の世界は必ず広がっていくものです。「千里の道も一歩から」ということばがあるように、私が日頃言っている「論理的思考力・批判的思考力・創造的思考力」を身につけることも、まずはその人が世界を広げ、自ら考えることを始めることから実現していくものでしょう。

本の好きな人は、今まで読んだことのない分野にも目を向けましょう。苦手な人は楽しそうなものから始めて下さい。この『夏に読む本』が少しでもみなさんの世界と可能性を広げてくれますように。

安宅和人：慶應義塾大学環境情報学部教授



校長 江川昭夫先生 推薦図書

中高
共通

『君たちはどう生きるか』 原作：吉野源三郎（岩波文庫）

漫画：羽鳥翔一（マガジンハウス）

主人公コペル君が学校でのいじめや級友の家の仕事を知ることを通して、人はどう社会と繋がるかなどを学び、人間的に大きな成長を遂げる物語です。太平洋戦争中に出版され、時代を超えて読み継がれる歴史的名著となりましたが、近年とある出版人が「今の若い人にも読んで貰いたい」と発案してマンガ化したところ、80万部を超える大ベストセラーになりました。中学生はもちろん、高校生にも、大人の方にもオススメです。



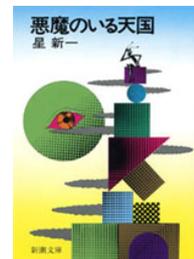
飯塚明範先生（理科・生物）推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『悪魔のいる天国』

星新一（新潮社）

今まで本をちゃんと読み切ったことがないその貴方！僕も昔はそうでした。そんな貴方に僕が初めて読み切った本を紹介します。星新一の『悪魔のいる天国』です。星新一はショートショートという短編よりも短い形式で、多くのSF作品を発表している天才です。この『悪魔のいる天国』も258ページの中に36作品が収録されています。テンポがいいので集中力が続かない人でも読み切れます。保証します。



高等部生
に
おすすめ

『動的平衡』

福岡伸一(木楽舎)

我々の体を構成する分子は常に新しいものに入れ替わっています。体内に存在している分子は約3年間でほとんど全てが別のものになってしまいます。物質的には今のあなたと3年前のあなたは全く別の存在です。では、あなたがあなたとして10数年間連続して生き続けているのは何故なのでしょう。それらの疑問を、生物学的な見地から易しい表現で説明してくれる名著です。生物学に興味がある人だけでなく、存在に興味がある人、時間に興味がある人、情報に興味がある人、多くの人に読んでもらいたいです。



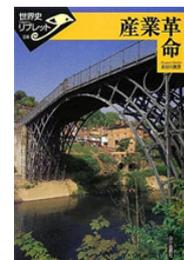
大木崇先生 (社会科) 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『世界史リブレット』(山川出版社)

シリーズものなので複数の作者がいます。

この夏休みは短い。そんなに分厚い本は読めないでしょう。でもこのシリーズなら大丈夫。とにかく薄い！ だいたい2時間もあれば読み終わります。それでいて内容が深い。最新の研究動向が分かり易い言葉で書かれていてビギナーにぴったりです。



高等部生
に
おすすめ

『世界史の哲学』

大澤真幸(講談社)

この著者は本当に読書が好きなんだなあ、と実感させられる。多分チンプンカンプンの章もあるだろうけど、高校生のうちは分かるところだけつまみ食いでも良からう。「普通はこういわれている。けど、それじゃひねりがない。よって私はこう論ずる」というパターンで書かれていて「ちょっと強引じゃないかな、とも思うがそれがまた楽しめる。



三枝優輝先生（理科・物理） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『オックスフォード&ケンブリッジ大学 世界一「考えさせられる」入試問題
「あなたは自分を利口だと思えますか？」』

ジョン・ファーンドン(河出出版)

「火星人に人間をどう説明しますか?」「歴史は次の戦争を止めることができる?」「人はいつ死んだことになりますか?」いきなりこのような問いを投げかけられたらどのように答えるべきだろう…? ユニークな思考・視点を含んだ、ユーモアあふれる解答例をつけた面白い一冊です。



中等部生
に
おすすめ

『星くずたちの記憶 銀河から太陽系への物語』

橋 省吾(岩波科学ライブラリー)

中1の理科2で岩石について学習しますね。実は、岩石を研究することは、地球や宇宙の歴史を調査することなのです。そして、地球上の岩石・鉱物が大地の歴史を伝えるように、宇宙に散らばる星くずの中の鉱物にも、宇宙や太陽系の過去が刻印されているのです。読みやすい内容となっています、ぜひご一読ください。ちなみに橋先生は、小惑星探査機「はやぶさ 2」の開発にも携わった東大の教授です。三枝も学生時代に大変お世話になりました。オードリーの若林さんにそっくりです。



中等部生
に
おすすめ

『ロウソクの科学』

マイケル・ファラデー(角川文庫)

著者のマイケル・ファラデーとは、物理学(電磁気学)という分野で大きな功績を残した科学者です。ファラデーは貧しい家庭に育ったため、学校に通えず、近所の書店でアルバイトをしていたそうです。その書店で扱う本を読んでいくうちに科学に興味を持ち、様々な実験をするようになったといわれています。彼がどのように実験・観察を行ったのか、これから理科を勉強していくうえで大事にしたい考え方が書かれている本です。



高等部生
に
おすすめ

『科学的とはどういう意味か』 森博嗣(幻冬舎)

科学とは何なのか、なぜ科学を勉強する必要があるのか…を考えさせられる非常に有意義な一冊です。理系科目の勉強法もチラッと載っています。ご参考にされてみてはいかが？ 著者は「すべてが F になる」、「スカイ・クロラ」で有名な森博嗣。実は国立大学の工学部の研究者だったということは知っていましたか？



高等部生
に
おすすめ

『音律と音階の科学 ドレミ…はどのように生まれたか』

小方 厚(講談社ブルーバックス)

音楽は物理と数学で構成されています。「なぜ特定の高さ(周波数)の音(ドレミ…)しか使えないのか?」「なぜ楽器は鳴るのか?」「不協和音ってなに?」…言われてみれば、確かに不思議なことばかりですね。普段の音楽の授業では教わらない「理系の音楽」入門書です。



高等部生
に
おすすめ

『音楽に自然を聴く』 小沼純一(平凡社)

ポータブル音楽プレーヤーが世間に広まり、一気に音楽が身近になりました。電車の中でも、駅のホームでも、歩きながらも、イヤホンをつけながら音楽を聴いている人をよく見かけますね。でも、自然の中にも音楽があるのです。和歌に虫の詩が多く存在するのはなぜ? ホールの残響が大事なのはなぜ? 自然の風景をヒントに作曲する音楽家が多いのはなぜ? そもそも「聴く」ってなんだろう? 音楽鑑賞のみならず、日常生活の中からインスピレーションを得るヒントになるかも…?



渡辺京子先生（英語科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『西の魔女が死んだ』 梨木香歩(新潮社)

主人公まいは中学生。この年代の女子特有の人に合わせる付き合い方に辟易して学校に行けなくなってしまったまいは、母親の勧めで祖母の家でしばらく過ごすことになった。祖母の家で「魔女修行」をしながら心が成長していく様子、祖母がまいにかける言葉、そして結末のメッセージ…など、忘れられない言葉や情景がたくさんあります。とても心励まされるステキなお話です。

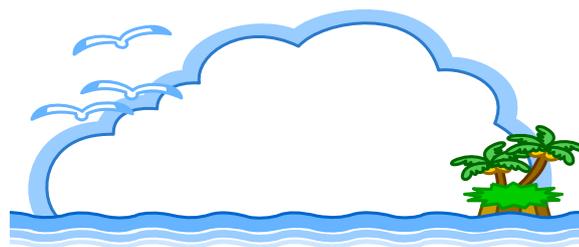


高等部生
に
おすすめ

『【至急】塩を止められて困っています【信玄】 (日本史パロディ 戦国～江戸時代篇)』

スエヒロ(飛鳥新社)

本当は司馬遼太郎「竜馬がゆく」を書こうと思いました。上杉謙信大好きな私が、竜馬大好きになって長崎で亀山社中まで行くくらいにしてくれた本です。でもこんな脱力系も楽しいのでは？誰もが知っている基礎的な歴史のネタをモチーフに、パロディやあるあるネタのようなもので展開しています。読みやすく笑っちゃいながら、歴史が楽しくなってしまう、そんな本です。タイトルはもしも戦国時代に知恵袋があったとしたら、武田信玄がこんな悩みを書き込んだのでは？という内容で、ベストアンサーに選ばれたのは echigo_tiger さんの回答です(笑) ひとりで読んでいて声を出して笑っちゃいますよ。息抜きついでどうぞ。



高田昌輝先生（情報科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『ミライの授業』

瀧本哲史（講談社）

若くして天に召された天才。瀧本哲史氏が将来を真剣に考えるきみのために書いた渾身の一冊。瀧本氏からのメッセージを一つ「過去に生きる大人たちに、未来をつくる力はない。21世紀の第一世代として、きみたちの手で、きみたちだけの未来をつくっていくのだ。」さあ、きみのミライのために、この一冊を手にとってほしい。



高等部生
に
おすすめ

『今日は、お日柄もよく』 原田マハ（徳間文庫）

「スピーチライター」。日本では、まだメジャーな職業ではないかもしれないが、世界を大きく変えることができる職業の一つだ。かつて米国大統領選挙で使われた「Yes, we can」。これはスピーチライターによって生み出された言葉である。たった一つの言葉で、世界を変えることができる。小説の内容は、主人公が伝説のスピーチライターと出会い、スピーチライターとして成長していくというお仕事小説。これほどまでに、言葉の力を「体験できる」小説はない。



田中亮子先生（国語科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『獣の奏者 I～IV』 上橋菜穂子（講談社文庫）

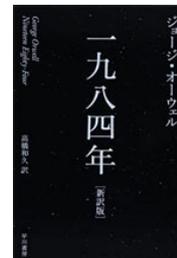
この本はファンタジーです。わくわくドキドキしながら、純粹に作品世界にまずは浸ってください。そして、読み終わったあとで、この本があなたが生きていく上でどんな大切なことを教えてくれたか、しみじみ考えてください。人と人との関わり、人と自然との関わり、色々なことを素直な心で受け止めて、考えてみてください。



高等部生
に
おすすめ

『一九八四年』 ジョージ・オーウェル(ハヤカワ epi 文庫)

是非、作品世界をとおして、現実に向き合ってください。ちょっと難しいかも知れませんが、私たちの社会がいったいどこへ向かおうとしているのか、この作品をとおして考えてみてほしいと思っています。



花村友美子先生（国語科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『チーズはどこへ消えた?』 スペンサー・ジョンソン(扶桑社)

2人の小人と2匹のネズミの物語です。迷路でチーズを探しながら暮らすネズミ達は、ある時大量のチーズを発見します。大喜びの2人と2匹。しかし、ある日目が覚めると大好きなチーズが消えてしまいました。次の場所へネズミはチーズを探しに行きますが、2人の小人は……。人は変わることによって不安や恐怖を覚えます。小人が経験する変化に、貴方の生き方のヒントがあります。今の世の中だからこそ読んでほしい一冊です。



高等部生
に
おすすめ

『新源氏物語』 田辺聖子(新潮文庫)

源氏物語は人生のバイブルです。親子・親戚・恋人・夫婦・主人と使用人……様々なドラマが繰り広げられます。谷崎・与謝野・円地と様々な訳本がありますが、田辺聖子氏の訳が比較的読みやすいと思う。



南雲由美子先生（養護） 推薦図書

中高
共通

『FIGURE SKATING ART COSTUMES』

伊藤聡美著 (KADOKAWA)

フィギュアスケートの衣装をデザインし制作する著者の、この上なく美しい衣装の写真とコメントが載った宝石箱のような本。曲想にふさわしく、そのスケーターの良さを生かし、機能性も追求しながらプログラムの世界観を表現する衣装の奥深さを味わえる。一着に何週間もの時間を費やして数千個のビーズをつける、気の遠くなるような作業。そしてその苦勞の結晶のような煌めきを、息をのんで見つめてしまうページの数々。開くと一瞬で別世界に入り込めます。



岡田康彦先生（社会科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『三国志』 吉川英治(講談社・吉川英治歴史時代文庫)

自分が中高生のとき、何を読んでいたかあと記憶を掘り起こしてみても、真っ先に思い出したのがこの小説でした。魅力的な登場人物の数々、グッと手に汗握る波乱の展開に、なけなしのお小遣いで全巻揃え、学校への行き帰りや寝る時間を惜しんで夢中になって読んでいたのを思い出しました。



高等部生
に
おすすめ

『イスラームの「英雄」サラディン——十字軍と戦った男』

佐藤次高(講談社)

大学で西南アジア史学なんていうニッチな専攻を選んだのは、高校生の時に佐藤次高先生の、「新書イスラームの世界史」3部作を読み、その世界に魅了されたからでした（それらは今お勧めするには古すぎる…）。同じ先生による、「英雄」サラディンや当時のイスラーム社会の姿を描く本書には、それらが冷静かつ客観的な文献であるはずにも関わらず、なぜかずっと魅了され、遠い異国のはるか昔の世界に飲み込まれていってしまいます。



多胡遥南先生（社会科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『ホームレス中学生』

田村裕(幻冬舎)

お笑いコンビ「麒麟」の田村さんが書いた大ベストセラー作品です。私も中学生ぐらいの時にこの本を読み、自分と同じ年の主人公の経験に対して驚き感情移入した覚えがあります。また、中学 3 年生の公民の授業で扱った内容でもあります。自分が想像しにくい話をリアルに時には面白く描かれている作品です。



高等部生
に
おすすめ

『ポピュリズムとは何か』

水島治郎(中公新書)

いま世界中でポピュリズムが猛威を振るっており、現在においてもこれからにおいて学ぶべき内容です。「大衆迎合主義」とも訳され、民主主義を蝕む悪しき存在と見なされがちなポピュリズムですが、ラテンアメリカでは少数のエリートによる支配から人民を解放する力となりました。この本では様々な国のポピュリズム政党・政治家の姿を描き、ポピュリズムを多角的に考察しています。



鈴木 光明先生（数学科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『ぼくらの七日間戦争』

宗田理(角川文庫)

厳しい規律が敷かれた中学で、11 人の少年少女が自由を求めて廃工場に立ちこもり、大人たちに立ち向かっていく物語。映画化もされていて有名な本ですが、私自身も中学生の時にこの本をハラハラしながら読みました。この本がきっかけで、宗田理の「ぼくら」シリーズはほとんど読破しました。漫画しか読まなかった私を読書好きにさせてくれた、大切な本です。



高等部生
に
おすすめ

『総理にされた男』 中山七里(宝島社)

「官僚って何？」と聞かれたら、あなたは答えられますか？ 総理大臣に瓜二つという理由で突然総理大臣の替え玉にされた無名の俳優が、総理大臣として奮闘する小説。設定は無茶苦茶ですが、テーマの内容は日本の政治課題そのもので極めてリアルです。国会・政党・内閣の関係も分かり、政治が全く分からない人も勉強になる、ハラハラスリリングな小説です。一气読み必至。



清水真一先生 (英語科) 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『英語の発想がよくわかる表現 50』

行方昭夫(岩波ジュニア新書)

中学生向けでありながら、単語や熟語の背景を大人が読んでも十分楽しい内容なので、肩の力を抜いて読んでください。



高等部生
に
おすすめ

『本物の英語力』 鳥飼玖美子(講談現代新書)

基本的な英語学習法から、大学を卒業し本格的に英語を使って仕事をする上での勉強法など、現実的に日本人が「英語の壁」を乗り越えるための方法10を紹介しています。英語が苦手な人も得意な人も英語の奥深さがわかります。



笠井 淳三先生（入試広報・図書館担当） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『精霊の守り人』

上橋菜穂子（偕成社）

舞台は人と異界ナユグとが交わる世界。凄腕の女用心棒（TV では綾瀬はるかが好演）が一国の皇太子を救い、自分の秘められた過去を解き明かし、国と国との戦いに関わることを通して、友愛とは、民族とは、国家とはというテーマに触れる冒険ファンタジー。数多くの文学賞をとり、著者は一連の作品で国際アンデルセン賞を受賞。守り人シリーズ。まずは『精霊の守り人』から読み始めて下さい。



高等部生
に
おすすめ

『十二国記 月の影 影の海』 小野不由美（新潮文庫）

舞台は昔の中国を彷彿とさせるような、でも違う十二国からなる異界。そしてそこでは倭と呼ばれる今の日本。家族や友達と今ひとつ仲良くなれず、生き方に自信の持てない女子高校生陽子の前に、突然ケイキと名乗る異形の男が現れ、異界へと連れさらわれる。そこで待っていたのは… 孤独・友情・使命・希望そして責任。生きることの意味を考えさせてくれる、昨年最新作も発表された話題の長編ファンタジーです。



南雲あき先生（数学科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『あずかり屋さん』

大山淳子（ポプラ社）

1日100円で何でもあずかってくれる不思議なお店のお話。店主の周りのもののたちの視点で描かれている心温まる物語です。



高等部生
に
おすすめ

『翼がなくても』

中山七里(双葉社)



ミステリー小説ですが、見所は陸上 200m のオリンピックを目指していた少女が交通事故で左足を失ってしまうが、義足での陸上競技に出会い様々な困難を乗り越えていくところです。陸上にかかる熱い想を感じる作品です。

山田幸恵先生 (保健体育科) 推薦図書

中高
共通

『星の王子様』 サン＝テグジュペリ(岩波書店)



その時の、そのままの思いで読んでみて下さい。・・・何歳になっても楽しめる本だと思います。私は、時々読んでみたくなる本です。

柏木晴貴先生 (国語科) 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『風が強く吹いている』 三浦しをん著 新潮社



箱根駅伝出場を目指して「走る」青春小説。長距離走の練習をしたり、大会に出場したりしたことのある人であれば共感できる、走っているときの孤独感やそんな中でも感じる仲間との気持ちのつながりが巧みに表現されている作品だと思います。

高等部生
に
おすすめ

『100万分の1回のねこ』

谷川俊太郎、江國香織、角田光代など(講談社)

佐野洋子の「100万回生きたねこ」へのトリビュート短篇集。作品を寄せた様々な作家の「100万回生きたねこ」観が味わえる作品。読む人によって、当たり外れが異なるところが面白いところ。良いと思った作品を周りの人と共有してみるとさらに楽しめると思います。触発されて、自分の「100万分の1回のねこ」を書いてくれたらうれしいなー。



松本浩欣先生（英語科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『ソフィーの世界 哲学者からの不思議な手紙』

ヨースタイン・ゴルデル(NHK 出版)

哲学は物の考え方を扱う学問です。ですから毎日勉強しても、考え方がわからなければ、せっかく覚えた知識もうまく活かせないかもしれません。そんな訳で、最近では世界中の学校で、ずいぶん早くから哲学を教えるようになってきました。そんな哲学を物語仕立てで楽しめる本書は、中学生で読むのと、高校生になってから読むのでは、全然違う読み方ができる、奥の深い本です。本好き、考えるのが好き、というチャレンジャーにお勧めです。



高等部生
に
おすすめ

『誰でも持っている創造力のスイッチ 知的複眼思考法』

苅谷剛彦(講談社+α 文庫)

多様性の時代である現代社会は、物事を様々な立場から多角的に捉える力が必要とされます。例えば大学卒業時に皆さんがまとめる卒業論文でも、先人の書き残した多くの先行研究を総合的にまとめ、その上にオリジナルの視点を加えて、新たな知の到達点を示さなければいけません。本書では、批判的・創造的な力の身につけ方を、オックスフォード大教授である著者が、わかりやすく解説しています。なるべく早い時期に読んでもらいたい一冊です。



齋藤まゆみ先生（技術・家庭科助手） 推薦図書

中高
共通

『ジヴェルニーの食卓』

原田マハ(集英社)

美術、特に絵画に疎かった私が一気に引き込まれた 1 冊。印象派の 4 人の画家について、傍にいる女性の視点で書かれた短編小説です。文章から、美しい風景・色・温度・香りが伝わってきて心が温かくなります。美術館へ行って本物を見たい！その土地へ行ってみたい！と思わせてくれることでしょう。



江口徹先生（保健体育科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『ポッコちゃん』

星新一(新潮文庫)

星新一さんのショートショートシリーズの中の 1 つです。森村の図書館にもこのシリーズはたくさん置いてあります。「読書が苦手」、「読む本がない」なんて人々にはおすすめです！1 つの話が 10 ページもしないので、どこからでも気軽に読むことができます。そして何より面白いです！物語はどのように構成されているのか、物語はどのように読んでいけばいいのか、読書の楽しみを教えてくれる本です。



高等部生
に
おすすめ

『金持ち父さん貧乏父さん』 ロバート・キヨサキ(筑摩文庫)

「お金のことで何から学べばいいのだろうか・・・」、興味はあるけどよく分からない、そんな人々におすすめの本です。主人公は金持ち父さんと貧乏父さん 2 人の父を持ち、その 2 人の行動や考え方からお金について学んでいきます。みなさんがお金を稼ぐ前に、お金との付き合い方を教えてくれる本です。また 2 人の父さんから出る名言にも注目です。お金だけではなく人生をよくするために考えるきっかけをくれます。



谷川毅成先生（理科） 推薦図書

高等部生
に
おすすめ

『流星ワゴン』

重松清(講談社文庫)

とても感動する小説です。涙なしには読めません。過去のあの瞬間に戻れたら…と思うことはありませんか？これはそれが叶う作品です。



伊藤なつみ先生（国語科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『駒音高く』

佐川光晴(実業之日本社)

将棋を知らない人にも分かりやすく書いてあり、かつ棋士を目指す登場人物たちの心情や緊迫したやり取りを感じ取れます。藤井聡太さんがいかにスゴイ人なのか分かります。



高等部生
に
おすすめ

『コンビニ人間』 村田沙耶香(文藝春秋)

第 155 回芥川賞受賞作です。人間社会での「生きづらさ」や「普通」って何だろう」ということを考えさせてくれる作品です。文庫本になっていて読みやすい文体ですので、普段本を読まない人にもおすすめです



小澤宗夫先生（英語科） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『ピノッキオの冒険』 カルロ・コロディ(岩波少年文庫)

ディズニー映画でおなじみの同作品。世間知らずの主人公ピノッキオは、自由を手にはしましたが、ブルーフェアリーの度重なる助言を裏切り、自らの欲望に負け、最後には一匹のロバになってしまう…。人は自分の欲望や社会の矛盾とどのように向き合えばいいのかを深く考えさせてくれる作品です。原作を読んで、ディズニー映画版との比較をしてみても良いでしょう。



高等部生
に
おすすめ

『森村市左衛門の無欲の生涯』 砂川幸雄(草思社)

この本は、中1の「創業者研究」で読んだことがある人も多いことでしょう。安政の大地震で全財産を失い、10代にして一家を養うことになった少年期。その後も様々な苦境を乗り越え、政府に頼らず海外貿易を果たし、社会貢献に尽力した翁の生きた姿と、その人生哲学を描いた同著。高等部生になった皆さんが今読み返すことで、きっと大きな心の支えとなることでしょう。



浅沼藍先生（美術科） 推薦図書

高等部生
に
おすすめ

『芸術と科学のあいだ』 福岡伸一(木楽舎)

生物学者福岡伸一さんのエッセイ集です。便宜上「理系」と「文系」に分かれて進んでいく高校生のみなさん。それはそれとして、仕分けに囚われずにもっとフラットに、もっと柔軟に思考出来たら楽しいね。芸術も科学も「この世界の繊細さとその妙に驚く」ことから始まる！読みやすい上に示唆に富んだ、素敵な一冊です



千原広夢先生（国語科） 推薦図書

高等部生
に
おすすめ

『AI VS. 教科書が読めない子どもたち』

新井紀子(東洋経済新報社)

「教科書が読めない子どもたち」…ちょっとドキッとした人いませんか？国語の読解問題だけの話ではありません。問題文を読み間違えていたり、言葉がうまくつなげていなかったり…問題の難しさとは全く関係ないところで躓いている人をたま～に見かけます。一方、世の中を見渡せば、将棋のプロ棋士に勝ってしまう将棋AIや、車の自動運転を可能にするAI、声をかければ何でも調べられるAIなどがあふれています。これからの時代 AI の存在は欠かせません。そして皆さんはそのAIに勝っていかなければいけません。「教科書が読めない子どもたち」にとっては大変そうな未来しか浮かばないですね…でも、諦めたらそこで試合終了です。「敵を知り、己を知れば、百戦して危うからず」という言葉があるように、AIとは何なのかを知り、人間がAIより優れていることは何なのかを知る。そのためのヒントを与えてくれる本。



石松江美（図書館 司書） 推薦図書

中等部生
に
おすすめ

『Masato』

岩城けい(集英社文庫)

お父さんの海外赴任でオーストラリアの小学校に転入した少年、真人が主人公。日本にいれば6年生ですが、地元校では5年生に。ことばと文化の壁にぶつかりながらも、自分の居場所を見つけていきます。サッカーを通して友だちとの信頼を得ることから、「ぼくはここにいたい!」とはっきり確信するくだりは、拍手喝采です。一方で、彼が自立と共に直面するのは、お母さんとの確執。現地になじめない彼女の苦しみ痛みが痛いほど伝わってきます。異文化理解を伏線として、少年の成長と自立を描いていて、丹念な心理描写に涙腺がゆるみます。



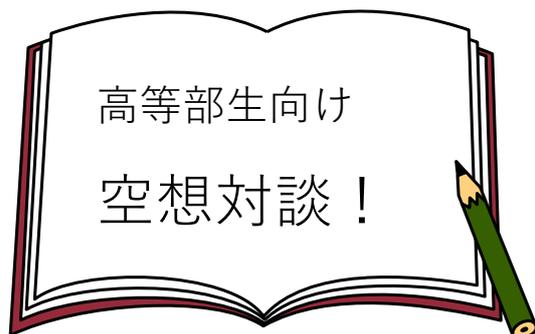
高等部生
に
おすすめ

『空飛ぶ馬』

北村薫(創元推理文庫)

本の表紙がいたんでしまっているので、いつ頃の作品だったかと解説をみると、1989年の作者のデビュー作とのこと。何と30年前の作品ですが、さわやかな読後感を思い出し、若いみなさんへのおすすめの1冊にしました。主人公の女子大生と噺家円紫師匠の推理シリーズはこの後にも続いています。日常のなかで起こる事柄に目を向け、淡々と明かされてゆく推理の展開に夢中になりました。主人公の清々しさや、真摯に問題に向かってゆく姿は、北村薫氏のどの作品にも一貫しています。





今、何を読むべきか

登場人物は実在しませんが、本は存在します

<ウイルスってなんだ？>

象君：みんな、コロナ対策しっかりやっていますか。天文ファンの僕としては、あの美しいコロナとウイルスが同じ名前なんて、絶対に許せない感じがするんですけど。

アキノリ先生：そうかい。太陽のコロナに似ているからコロナって名付けられたんだけど。似ていないのは、コロナとばい菌の方かなあ。コロナがばい菌じゃないこと、ちゃんと説明できますか？

象君：えっ？ 確かにコロナはウイルスですけど…

アキノリ先生：じゃあ、ウイルスって何？

象君：ん～??



アキノリ先生：答えられなくても仕方ないかなあ。多くの日本人が尊敬する野口英世だって知らなかったんだからねえ。そもそも生き物であるかどうかだって謎の物体なんだ。ちなみにばい菌は細菌、立派な(?)生物です。このあたりのことは福岡伸一『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書)に面白く解説されています。最近では中屋敷均さんという先生が『ウイルスは生きている』(講談社現代新書)を出してるな。どちらも賞をとった人気本ですよ。

象君：『ウイルスは生きている』なんて意味深長ですね。生きていない、つまり生物ではないというのが今の常識で、それを否定しているんです



ね。

アキノリ先生：わかった？ だから「除菌」とかいう言い方はおかしいんですよ。菌じゃないんだから。「消毒」というべきです！

<AI 革命時代を生きるために>

象君：なるほど。一刻も早くコロナウイルスが消滅するといいですね。そんな簡単ではないと思いますが。AI を活用して特効薬やワクチンが開発されないかなあ。なんたって、今はAI の時代なんですから。

ユウキ先生：AI ねえ。象君はAI で薔薇色の未来を描いているの？

象君：もちろんですよ。英語が苦手な僕は、Siri やアレクサの助けを借りて生きていこうと思っっているくらいですから。

ユウキ先生：おいおい。君みたいなナマケモノは将来困っちゃうだろうな。AI のこと、もう少し勉強した方がいいんじゃない？ どうして機械が知能を持てるのか…ウイルス以上に機械は生き物とは程遠いけれどね。

象君：おお、新たなる難問。Siri、答えて！

ユウキ先生：こりゃだめだ。いいかい。君のような人間はまず松尾豊『人工知能は人間を超えるか』(KADOKAWA) を読んでみなさい。深層学習とかディープラーニングとか言われている画期的なアイデアが、特定分野でなら人間以上の問題解決能力を身に着けるきっかけとなった理由と仕組みがわかるはずだ。

人工知能は
人間を超えるか
ディープラーニングの先にあるもの

松尾 豊 Yutaka Matsuo



象君：はあ。深層学習ではなく睡眠学習の方がいいんですけど。

ユウキ先生：君の言っている睡眠学習だけど、昭和 50 年代に本気で考えていた人がいて、実際にその商品も発売されていたんだよ。

象君：僕、絶対に買います！

ユウキ先生：やめときな。50 万台も売れたそうだけれど、それを使った学生はみな睡眠不



足になって逆効果だったそうだ。君のような人はいつの時代でも後を絶たないなあ。学問に王道なしだよ。で、AI だけれど、将来の職業がどうなるのか、人の暮らしはどうか変わるのかなど、新技術が社会にどのような影響を及ぼすかに切り込んだのが、井上智洋『人工知能と経済の未来』（文春新書）だ。経済学者が描く未来像。将来社会に出て働くようになるのだから読んでおいた方がいいんじゃないか。

象君：将来ねえ。考えなくてはとは思うんですけど。切迫感が全くなくて。

ヒロム先生：「少年老い易く、学成り難し」ぼやぼやしているうちに時は過ぎちゃうよ。「学びて思わざればすなわち罔（くら）し、思いて学ばざればすなわち殆（あやう）し」思っているだけではだめ、スマホばかりいじってないで少しは本を読んで学びなさい。さすが孔子さま、学生の弱点をよくわかっていらっしゃる。

象君：スマホばかりって言いますが、今の時代、先生達のスマホの操作、なんだか見ていられないなあ。若者の方が使いこなしていますよ。先生こそ時代遅れじゃないんですか。

ヒロム先生：むむむ。確かに今の高校生はスマホの扱いに長けているなあ。それは認めるよ。でもね、世に広がる SNS の使い方には相当注意しないとイケないぞ。『徒然草』の 73 段にこうある。「世に語り伝ふること、まことあいなきにや、多くは皆、空言なり」。兼好法師は噂話ほど恐ろしいものはないと見抜いていたんだ。「音に聞くと、見る時とは、何事も変はるものなり。」自分の目で確かめろともね。真実は時代を超えて通用するのです。それに君はスマホの中身をまるでわかっていないのでは…



象君：わかってますよ。スマホはコンピュータの進化したものだ。

ユウキ先生：おおっと。ヒロム先生はそのコンピュータの仕組みを君がわかっていないと言っているんだよ。ブラックボックス化したものを理解しようともせず、使うことだけを考えている。それじゃ日本の将来は危ういね。発明し生産するのは日本以外、日本人は利用させてもらうだけではまずいでしょ。

象君：はいはい。本を読めでしょ。

ユウキ先生：その通り。コンピュータやネットの仕組みが良くわかる本があるぞ。アメリカの名門プリンストン大学での人気講義を書籍化した『教養としてのコンピュータサイエンス』だ。



象君：名門大学の講義でしょう？ 僕には無理です。

ユウキ先生：それがそうではないのだ。コンピュータに関心がある森村生にはピッタリだと思うよ。数学が苦手な人でも、数学的発想も学べて面白く読めるはず。『教養として』とあるように、文理不問の講義なんだよ。高校生でも理解できます。

<常識を疑え>

フミ先生：さっきから話を聞いていると、象君はもっと発想を広げた方がいいのではないかな。すぐ「ムリ！」ってあきらめちゃうタイプね。もっと自分の可能性を信じなさい。そしてあなたが常識だと思っていることも、少し疑った方がいいわよ。

象君：来た、来た、来た。また本の紹介だな。



フミ先生：(象君のボヤキを気に留めるでもなく)常識に凝り固まっているあなたにお勧めなのは、この本ね。ハンズ・ロスリングの『FACT FULNESS』。最初に出てくる13のクイズがスグレモノ。選択肢問題だから答えてみて。私たちがいかに、貧困・教育・環境・エネルギー・人口問題に対して誤った知識と考え方を持っているかがわかるわ。本書の帯には「賢い人ひとほど真実を知らない」とあるので、堂々と間違えられるというおまけ付きよ。

象君：ええっ？ クイズには自信あるんだけど。正解したら賢くないってわけ？

ヒロヨシ先生：君はまったくロジックがわかっていないね。逆は必ずしも真ならずだよ。「愚かなひとほど真実を知る」なんて言っていないでしょ。賢いひとが陥りやすい罠に注意せよということだ。常識を疑え！とも言える。君の場合、常識もないから、疑うべき知識そのものがないかもね。国際交流を志すなら、言語技術！ 森村生の常識だよ。

象君：キツ！ 悔しいなあ。今日は言われ放題、頭にきたから全部読んでやるぞ！

ヒロヨシ先生：そうこなくっちゃね。我々はいつも応援しているんだから。もうずいぶん前から「パラダイムシフト」なんて言われているでしょ。コロナの影響による様々な社会変動は、まさにパラダイムシフトを我々に迫るものだよ。これまでの常識が通じなくなり、新しい時代の新しい常識が新しいスタンダードになる。もちろん、その新しいスタンダードも、次のパラダイムシフトで塗り替えられることになるんだけど。

つまり、常識は永続的なものじゃなくて、時代が変わればツッコミどころ満載の面白スタンダードだってことだ。だから知的な現代を生きる我々に必要なのは、常にツッコミを入れながら、面白おかしく常識を揺らし、新しい時代に備えることなんだ。新しい時代を作るのは私たち大人じゃなくて、君たちだろう。

そんな常識へのツッコミの入れ方を教えてくれるのがこの本、『ツッコミカ』（パオロ・マッツァリーノ：ちくま新書）。半分ふざけたような本だが、中身も半分ふざけてる。でも、ふざけながら「パラダイムシフト」に備えられたら、面白くないか？



象君：面白いと思います。先生、これだけの本を読む時間を僕に下さい！ 例年並みに夏休みを延長しましょうよ。

アキオ校長：・・・・・・＜呆然＞

(了)

= 編集後記 =

コロナ禍で休校の長引くなか、生徒の皆さんにむけてどのようなかたちで「読書」をすすめるかということは、図書館として大きな課題でした。新型コロナウイルス感染拡大防止という非常事態のなかで、開館時期や貸し出し形態、利用スペースの制限などを工夫することは、図書館として経験のなかったことであり、同時に、利用者みなさまには大変ご不便であることと思います。

そういった中で、中高図書館としては、先生がたにもご協力いただき、読書の楽しみを伝えていただくという企画により出来上がったのが、この「夏に読む本～推薦図書リスト～」です。

中高の教職員にむけたアンケートにより、中高それぞれの生徒に向く本を挙げて頂きました。教科にこだわらず、本の読後感を綴っています。生徒の皆さんに、本を読むことを楽しんでほしいという思いで選んでいることは、言うまでもありません。

先生がたには、学期末のご多忙のなかでの原稿のお願いを、快くお引き受けくださいますて、ありがとうございました。

末筆ではありますが、「夏に読む本」の企画・編集にあたりまして、図書館顧問 笠井淳三先生と小澤宗夫教頭先生に、多大なご尽力とご指導を賜りましたこと、あつくお礼申し上げます。

2020年 7月31日

中高図書館 司書 石松江美

『夏に読む本～推薦図書リスト』
令和2年7月31日 発行
編集・発行：森村学園中高図書館